



福祉学習ハンドブック



社会福祉法人 南あわじ市社会福祉協議会
南あわじ市ボランティアセンター

〒656-0122 南あわじ市広田広田 1064(南あわじ市旧緑庁舎内)

TEL 0799-44-3007 FAX 0799-44-3037

URL <http://www.minamiawaji-shakyo.or.jp>

Eメール info@minamiawaji-shakyo.or.jp



はじめに

このハンドブックは福祉学習を推進するために、役立つ情報を提供するため作成しました。「なぜ、福祉学習が必要か?」「福祉教育を通して何を学び、何を伝えるのか?」を社協という立場からご提案できればと思います。大切なことは、地域住民・学校・企業などが一緒になって、同じ地域で生活するひとり暮らし高齢者や、障がい者の存在を知り、思いや悩みを共有することです。そこから、さまざまな生活や生き方があることに気づき、福祉問題、福祉活動の意味や役割に関心を持ち、生活課題を抱えている人を理解し、深い思いやりの心が生まれるのだと思います。



3つのポイント

- ① 気軽に進めよう。福祉の理解からはじめなくても大丈夫
- ② 困っている人の困難を理解しよう
- ③ そのために何ができるのか考え、やってみよう

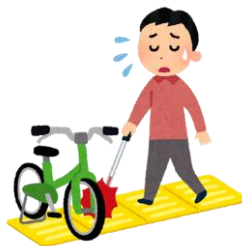


「みんなの ふ(ふだんの) く(くらしの) し(しあわせ) を考えるための学習」のことではないかと思いますが、いかがでしょうか。言葉でいうと分かりにくいかもしれませんが、この3つの考えを大切に、福祉や人間に関心を持ち、自ら行動する人々が増えることをめざしています。



5つのチカラ

- ① 人や自分を思いやる力
- ② 違いや自分を認める力
- ③ 自分の思いや考えを人に伝える力
- ④ 事実を受け止め自分で考える力
- ⑤ 自分で考え行動する力



福祉学習を通して5つの力を引き出すことが求められます。

ところが福祉学習というと…

手話や点字の学習をすること、車いす体験をすること、さまざまな当事者の方との交流体験をすることなど、いわゆる福祉に関わる体験をすることそのものが目的だという誤解があるようです。これらの取り組みは、子どもや地域が変わるきっかけにはなりますが、ただ体験の場があることだけでは充分ではありません。繰り返し体験を重ねながら、関係が変わる様子を楽しみに見つめ、さまざまな人が関わる機会や意欲・自発性が高まる機会を創り出す支援者の存在が不可欠なのです。

相談から実施までの流れ

①事前相談

「福祉学習を実施したい」「今までの取り組みをさらによくしたい」などのご相談に南あわじ市社協の職員がお伺いします。ご相談内容に応じて、周辺の社会資源や環境、実施人数や時期などを参考に企画づくりをサポートします。

②講師・受入先紹介

内容に応じて適切な講師や受入先を検討し、ご紹介させていただきます。ただし、講師や受入先は日頃は仕事をされています。そのため直前の申し入れに対応できないこともありますので、日程には十分な期間が必要です。

福祉学習をすすめるための講師派遣の費用は社協で負担いたします♪

☆障がいのある方のお話（視覚障がい、身体障がいなど）

☆手話学習

☆車イスや白杖体験の指導 など

※申請書の提出が必要



③機材貸出

ボランティアセンターでは、福祉学習で使用する福祉用具の貸出しを行っています。スタッフが機材の搬入・搬出のお手伝いをしています。体験用機材の貸出しは希望が集中する時期がありますのでお早めにご予約ください。

車イス



自走式は、利用者が自身が動かして移動する標準型車イスです。介助式は、移動には介助者が必要なタイプです。互いの信頼関係により、移動の安全性が確保できます。

点字盤



点字は、書く時と読む時では逆さまになるので、実際に覚えるのは難しい面があるようです。また、相当の訓練をしないと触読は身に付きません。しかし点字がどんな所で使われているかなどの調査をすることで、障がいのある方のことを知るきっかけとなっています。

高齢者擬似体験用具



体験者自身が用具を着けることで高齢者の行動・動作などの変化が体験できます。

アイマスク・白杖



視覚障がいの疑似体験は、アイマスクや白杖を使用し階段の昇り降りなどを体験してみましょう。使用の際には、ティッシュを目とアイマスクの間にはさみ感染症を予防しましょう。



④体験学習

体験学習は当事者への理解を深める効果的な学習です。単に「車イスの押し方を学ぶ」のが目的でなく「障がいのある方の生き方にふれる」や「優しい心を育てる」ことを目的としています。

<体験学習実践例>

① 車いす体験



二人一組や班ごとで、車いすの押し方（声かけ）やブレーキの操作方法、段差の越え方などを体験します。屋内や屋外など、実施する環境に応じてさまざまな体験スタイルが考えられます。

② 高齢者疑似体験



体にサポーターや重りを着けることにより、高齢者の感覚を体験します。体の重さ、肘や膝の動きにくさのほか、白内障とほぼ同じように見えるメガネなどを使って目の衰えも体験できます。サポーターを装着するのに時間を必要とするため他の体験に比べ時間を長めに設定することが必要です。

③ アイマスク・白杖体験



二人一組でペアを組み、一人がアイマスクをして視覚障がい者の体験を、もう一人が介助の体験をします。途中で交代し、両方の立場を体験します。視覚障がい者の生活上の不便さを知ることができ、またそれ以上に介助をすることで、ボランティア活動の大切さや、自分にもボランティアができることを知るきっかけになります。

④ 手話体験



手話は、聴覚障がい者のコミュニケーションの一つとして使われています。手話体験学習では、「あいさつ」や自己紹介などを学び、手話に触れる体験をすることが一般的です。実際には、聴覚障がい者のなかにも、手話を使わない方がたくさんいらっしゃいます。この体験を通じて、手話だけでなくコミュニケーション方法を含めて、理解を深めることが大切です。

⑤ 当事者の方のお話を聴く・交流



福祉学習を深める上では、障がいのある方や高齢者などの当事者の方々の話や体験を聴くことが大切です。当事者の方を招くにも「誰にお願いしたら良いかわからない」「どこに相談したらよいかかわからない」と思ったらまず社協にご相談ください。今までの体験や生きてきた歴史を知ること、尊厳を育み交流することができると思います。

⑥ 各種講座



社協や福祉関係機関の職員などによる各種講座を通して学習を深めます。

- ★災害ボランティアについて
- ★ユニバーサルデザインについて
- ★寸劇を通じたボランティア講座
- ★各種ボランティア養成講座 など

その他の詳細については、お気軽にご相談ください♪